

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成29(2017)年
5月号
通巻561号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成29年5月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷製本
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



マルバアオダモ (平成23年5月2日、大倭病院南側に残る山にて)

奈良市 川端一弘さん撮影

大倭会文化講演会報告【第1回】

われわれはどこから来て、どこへ行こうとしているのか？

「この星に生き続けるための物語」

皆さんこんにちは、関野吉晴です。最初に皆さんにお伺いしたいことは、曾お祖父さん、曾お祖母さんの名前を全員知っている方はどのくらいおられますか？三世代前です。私も知りませんが(笑)。では、例えば十世代くらい前まで家系図があつて、先祖を辿れる方はどれくらいいますか？ 数名ですね。研究者は一世代三十年とみています。それで換算すると、十世代は三百年前ですから江戸時代の真ん中よりちょっと前です

縄文時代は百世代前



講演会風景

※関野氏は、探検家・人類学者・外科医であり、武蔵野美術大学教授

講師 関野吉晴氏

平成28(2016)年11月12日(土)
大倭拝殿にて

ね。では百世代前はどうか？ 迎れますか？ 戦国時代だと二十世代くらい前です。実は百世代前まで先祖の名前を辿れる方はいないはずなんです。縄文時代ですから。三千年前です。でも縄文時代はたった百世代前なんです。この黒板(180cm×85cm)一面に、例えば私の名前を一センチで書いて一世代とすると、百人書いてしまう。日本列島にいたかどうかわかりませんが、必ずいるわけですね。

ホモサピエンスは 全員、肌の色が浅黒かった

では二十世代(六万年前)はどうでしょう。ここ(拝殿の正面)から入口の障子迄だいたい二十メートルあれば、二十世代は書いてしまう。二十世代前ってどんな時代かわかりますか？ 日本人ではなく人類の転機。実は六万年前はホモサピエンスがアフリカを出た時代です。更に百八十万年前には原人がアフリカを出ています。今世界の人口は七十三億超えています。全員がホモサピエンスです。その先祖はやっぱりアフリカで二十万年前に生まれました。六万年前の人類は全員肌の色は同じだったと思います。今の北アフリカの人と同じで、私達日本列島に住む人もアメリカ、南米、あるいは北欧にいる人達もその頃は浅黒かった。

何故かという肌の色は紫外線だけで決まります。紫外線って悪いもので避けた方がいいから、メラニン色素で自分を守る。でも何でもそうですが、適量というものがありません。例えば酸素でも空气中に二割あればいいわけで、ありすぎて困る。もし四割あったら、そこから辺で出火しちゃって大変です。葉も全くそうで、二錠のところを百錠飲んだら死にます。適量がいい。紫外線も同じ

で、毒なんですけども全くないと困る。それで北欧の人達が何故真っ白になったかというところ、紫外線が弱い所に行ってしまったからです。

私達の身体はビタミンが必要で摂取しなければなりません。唯一自分の身体で作れるのがビタミンDで、これは皮膚で作る。その時に必要なものが紫外線です。だから浅黒いままだと紫外線が弱い光ではビタミンDが作れない。そうするとケル病とか骨の異形成で、短命になり、その人達のグループはたぶん滅びていったのだと思います。ただその中で突然変異を起こして白子になった人達のグループが生き残ったんです。

たった二十世代前は、白い人達も浅黒い人達も中間色の人達も全員浅黒かった。トランプが大統領になったけれど、人種や肌の色で優劣をつけることがいかに馬鹿げているかわかると思います。人類がアフリカからやっと日本列島に住み始めた頃は四万年前なので、二、三世代前はシベリア、東南アジアや中国大陸にいました。日本人は混血で出来ました。だからヘイトスピーチなんかで、アジアの外国人に出て行けなんて馬鹿なことを言っているけど、元は同じです。

人類は進化ではなく文化で適応した

人類がアフリカで生まれたということを否定する人は、今真面目な研究者ではありません。アフリカ以外で、もっと古い人骨が見つかっていないからです。ここ十年日本で一番古い骨は、石垣島で見つかったもので二万二、三千年前です。石器は一番古くて四万年前です。六万年前にアフリカを出て、一番遠くまで行った人は、シベリア・アラスタル経由で南米最南端まで行っちゃいました。住まないところはないという程世界中に拡がった。

こんな動物はいません。いるのは犬猫くらいで、彼らは人間が行って、しょうがないからくっついて行ったんです。

例えば熱帯にいる小さな熊はマレーグマで、日本列島に来るとちよつと大きくなってツキノワグマ、更に北にいくと北海道にはヒグマがいます。これらはシベリア、アラスカ、カナダの熊と同じでブリーズリーという灰色熊です。更に北に行くと白い北極熊がいますが、もう種が違います。だからマレーグマと北極熊を交配しても子孫は残せません。ライオンとヒョウの掛け合わせはできません。その子孫は残らないのです。要するに野生動物は突然変異を起こして進化して適応していききました。ところが私達人類は、全然進化しないであらゆる場所に住んでしまった。熱帯雨林で生まれ、サバンナに出て、砂漠に出て、五千メートルの近くの高地まで進んで更に北極圏まで行きました。こんな動物はいないんです。

私達が一番近い動物はチンパンジー、あるいはサルです。ニホンザルは北緯四十一度の下北までしか行っていない。動物園には勿論います(笑)。けれど野生ザルは超えられなかった。なのに人間は北緯四十度どころか六十度を超えて、尚且つ北極圏まで行きました。これを成し遂げたのは一つの、本当に小っちゃな発明があったからです。

暖かいところでは裸でいい。温帯になると、ちよつと毛皮を羽織ってみようかとなる。けれども北極圏では羽織ったままでは生きていきません。羽織っていたら冷たい風が入ってきます。マイナス四十度の風が入ってくると人間はどうなると思いますか？ 皮膚の温度は零度になっても生きていきますが、心臓は三十度になったら低体温症で不整脈を起こし、心不全になります。本当に内臓は弱いですから、肝不全・腎不全にもなって死に

ます。実は気温が摂氏零度でも死にます。濡れたままで風の強い所に人を置いておいたら一時間で確実に死ぬ。濡れているって凄いなことなんです。その時の発明が針と糸で、縫い合わせることによって保温出来る物を発明しました。もう一つは半地下式の建物によって毛皮で覆うということをやりました。

ですから人類は、進化したわけではなく文化によって適応しました。私とエスキモーやカナダのイヌイットの人達を比べても殆ど同じで、マイナス四十度の中に裸で放り出したら私は一時間、彼らは二時間で死にます。それくらいの違いなので、裸になったらそんなに適応しているわけではないんです。

南米の人達が日本人と似ている

約七百万年前に生まれた現生人類は、およそ六万年前にアフリカを出て長い時間をかけて世界中に拡散しました。その旅路を、イギリス人の考古学者(ブライアン・M・フェイガン)が「グレートジャーニー(The Great Journey)」と名付けました。

私は偶々二十年間、南米ばかり通っていて、アマゾンやアンデスの先住民達と親しく付き合っていました。我々日本人と似ているということとは、元々知識では知っていました。

というのは、ユーラシア大陸とアメリカ大陸は、今はベーリング海峡が隔てていますが昔は繋がっていた。今は地球温暖化で海面が少しづつ上昇しています。二万年前は、地球の四十六億年の歴史からいうと新しい時代ですが、氷河が発達していて凄く寒かった。海面は今と比べると百二十メートル低かったんです。例えば間宮海峡は十メー

もないですから、サハリンとシベリアはくっついていました。宗谷海峡は五十メートルありますが、底が出ていた。二万年前は大陸とサハリンと北海道は繋がっていて半島でした。ベーリング海峡には、二万年前はまだ人類は達していなかったかもしれないけれど、一万五千年前でもやはり陸続きでした。陸続きどころか、日本列島が幾つか入るような広さの大陸だった。

たぶんアジアの方から来た人達がマンモスとか野生のトナカイを追っかけているうちにアラスカに着いちゃったんですね。彼らこそがアメリカの発見者で最初のアメリカ人でもあり、それがコロンプスがヨーロッパからアメリカに到達した一万年以上前です。そこに残った人達もいるし、北に行った人達がアメリカインディアンになり、更に南にいったマヤ、アステカ、インカの先祖になり、アマゾンに行った人もあり更に南下してパタゴニアの住民になった。ですから、南米の人達がアジア系の人で私と似ているのが当たり前なのは知識では理解していました。けれど実感として感じるのは全然違うわけです。

逆の例もありました。アマゾンの村に一月とか三か月とか村では裸足で滞在して、太鼓とか弓矢とか色んなお土産を一杯貰って裸足のまま街に戻って歩いていると必ず声をかけられます。「あんな何族だい？」って。私が「〇〇族です」と答えると、「あつそ」なんて言って立ち去っていく(笑)。

彼らは一体いつ何故どのようにしてここまでやってきたのか？と。それを辿ってみる旅をしようと思ったのが「私のグレートジャーニー」でした。

本来だったらアフリカ発で出るはずですが、南米発アラスカ・シベリア経由アフリカ着の旅を、足掛け十年かけて逆ルートで始めました。その前

に二十年間南米通いをしていたのでそういう発想になったわけです。実は本当は家族を連れて採集狩猟しながら旅をしたいと思ってました。ところが、子供がまだ二歳になったばかりだったとか、あとは狩猟をしていたらたぶん二、三週間警察に捕まるだろうなど(笑)。

太古の人達に思いを馳せて旅をするのにどうしたらいいかなど。やっぱり近代的な道具、エンジンとか近代的動力はやめて、基本は自分の腕力と脚力でやる。昔も使っていた動物、犬、馬、ラクダ、トナカイは使う。でもただ乗せてもらうのは駄目。例えばトナカイ匠に乗せてもらうのは駄目だけど、トナカイぞりをトレーニングして使えるようになったらいい。勝手に決めたルールです。破っても誰も文句は言いません(笑)。

グレートジャーニーは、実は四十幾つかのミニ・エクスペディション(探検)の繋がりで。例えばベーリング海峡を渡るとか、シベリアを犬ぞりで旅するとか、そういうのが四十幾つか合わさっているわけで、殆ど場合はミニゴールに着けるかどうかかわからない。気候が変わって着けない場合もあるし、事故が起こるかもしれない。例えばシベリアを犬ぞりで旅をして、冬に始めても、春先になって雪が溶けてベチヨベチヨに重たくなると、水浸しになる。川や湖の水も溶けてしまう。犬が走りにくくなってそりが滑りにくくなる。そうすると本当にミニゴールに着けるかどうかかわらなくなります。

トナカイぞりと最後のサバンナを自転車移動した時は気持ちが悪かったけど、それ以外ほとんどかく着きたくて、もう本当に着きたくて、着いたらほっとするというか。でも次があるんですね。

旅の後は自分の足元が知りたくなり、日本の縄文時代や縄文的な生き方に関心が湧きました。

グレートイミグレーション

そもそも北アフリカはそんなに住みにくくはないと思うんです。じゃあ人類は何で出たのか？何で世界中に拡がったんだらうか？人間だけがやれたことで、これは凄いことだと思ふ。だから偉いということでもなくて、逆に言うところ、じゃなければこんなに繁栄出来なかつたはずなんです。旅ではなくてそこに住み着くわけですからね。ではその原動力というのは何だと思ひますか？

会場の声…①人口増加。

②もっといいところがあるから。

この二つの意見両方とも、私もそう思ひました。最初はいいところ、要するにあの山を越えたら何があるのらうかという好奇心と、もっといい暮らしが出来るのではないかと向上心。それが結びついて、どんどん世界中に拡散していったのではないかと考えていました。でもだんだん、違うかなと思ふようになった。

それは何故か。アフリカを出て一番遠くまで行った人が、ベーリング海峡を超えて南米最南端まで行ったわけですから、好奇心と向上心としたら、一番遠くまで行った人が一番それが強い人々なはずなんです。でも行つてみたら、違ひました。逆でした。自分達はヤマナ(人間という意味)、よその人からはヤーガンと言われている人達ですが、今一人しかいません。私がグレートジャーニーで出た時はお婆ちゃん姉妹で二人いましたが、一人は亡くなりました。純潔はその人だけで、八十代半ばですからたぶんそんなに長くない。そうすると全滅です。絶滅ですね。そういう例を至るところで見ました。

例えばラオスのモン族は、隠れるようにして米

作りをしています。山の上なので陸稲です。彼らの起源は長江の流域で、そこではミャオと呼ばれます。何故そこまで移動してきたかというところ、中国がいつも戦乱に明け暮れていて、弱みから嫌で山の方に逃げてきた。彼らは最近まで不幸を背負つていて、ベトナム戦争の時に北ベトナムとCIAとに分断されました。CIA側についた人はアメリカに亡命していつて、親戚までもがどっかにつかないといけないう状況に追い込まれました。そういう民族です。

つまり住みよければ人口は増えてきます。人口を抱えきれなくなると、誰が出て行くか。やっぱり既得権を持った強い人は出て行かない。そうすると弱い人が出て行く。でもフロンティアに行くわけですからパイオニアにならないと適応出来ない。滅びたグループも一杯いると思ひますけど、パイオニアとして住めば都にしちゃつた人達が生き残る。でも又人口が増え、誰かが出ていくことの繰り返しじゃないかと最近思ふようになりました。昔は好奇心や動物を追いかけいくうちにといいこともあつたでしょうが、時代が新しくなればなるほど押し出された。ですから日本列島にやつてきた人は本当に弱つちい人達が集まつたんだと僕は思つています(笑)。これ以上東には行けない。イギリスも同じです。本当に弱つちい人間が集まつて、これ以上西に行けない。

ところがよく考えてみると、弱つちい人間が弱いままでないことがある。要するに押し出した人よりも経済力や軍事力で強くなつたら、押し出した人を負かしてしまふ。その典型が良いか悪いか別として、日本はアジアを、イギリスは世界を制覇しようとした。そういう歴史を繰り返してきました。人類学会で発表した時に証拠を出せと言われませんでした。弱い人が出て行ったというのは類推にすぎ

ないのではないかと。よく考えてみたらそれに近い証拠が見つかりました。明治の移民です。満州やハワイ、南米に行きました。その頃人口の大半は農民です。長男は土地を貰えるからいい。でも次男以下は、兄の手伝いをする、あるいは町に行つて働く、思い切つて海を越えて外国に移民に行くわけです。強い人じゃないですよ。

戦後は逆のことが起こりました。日本にブラジルやアジアから移民が来しました。その人達の中で本当に強い人は、何をしてるか。土地や骨董品などを爆買したりして帰つて行きます。今東京で新宿区は生まれてくる子の四人に一人はどちらかの親が外国人です。信じられないと思ふけど、東京の新大久保の周辺に行けば、聞こえてくるのは外国語ばかりです。その人達は決して強い人じゃない。そこで働いて仕送りするとか、十年二十年、あるいは一生帰れないかもしれないけど、働いて国に帰つて商売したいとか、家を買いたい等て来ているわけです。

そう考えるとグレートジャーニーという命名が間違つているんじゃないかと。これはグレートジャーニーではなくて、グレートイミグレーションだと。移民なんです。大旅行じゃない。

私は今年の夏に、トルコにいつてシリア難民と一緒に地中海を越えてドイツまで一緒に歩いて行きたいとうちの奥さんに言つたんです。馬鹿じゃないのって言われました(笑)。要するに難民の人達に失礼だつていうんですね、辛い思ひしてるのに。本当に弱い人達は実はシリアから出られません。空爆にあつて苦しんでいます。出られる人は小金持ちです。そういう意味で、現在進行形のグレートイミグレーションで、そうやつて人類は世界中に色々拡散している。(続)

文責・編集部



F1WCの経験からの組織運営

滋賀県甲賀市 (F1WC関西委員会OB) 樋口邦彦

大まかに、私の足あと

『とおやまと』新聞を毎号楽しく読ませてもらっています。この度編集部からテーマお任せで投稿を依頼されました。とりあえず、つれづれに近況報告をさせていただきます。

F1WCの50年誌には私の文章がいくつか載せられていますが、問題意識はもっぱら組織運営、らしい(※現在はハンセン病と改称)などのテーマにはまじめに取り組んでいなかった事が分かります。3年生の夏のキャンプに私を学生運動の戦線に引き戻すべく、大阪市大の新左翼学生がオルグに来たのですが、拜殿で私が拍手を打って「なもたかまがはら」(※大倭では、の)なんて唱えたら、目を白黒させて、オルグの気力を失ってしまったことがありました。また法主さんから「あなたの2代前の霊魂は朝鮮人やったで」と言われたことも楽しい思い出です。

卒業後、大学院生活1年。芋がゆ亭(※交流の家建設時の拠点だった建物。現在須賀の道辺り)で宿泊し、飯河四郎・梨貴夫妻の世話になりながら、交流の家の運営を考えましたが、何ら具体像を描けないまま、杉浩史さんの誘いなどで吹田市の千里山生活協同組合へ。ほんの2年の約束で出向いたつもりが17年続きました。このの成り行きで退職。5か月間の失業生活の後、滋賀県のスーパーマーケット平和堂に5か月間籍を置きました。地元の人からの誘いでスイミングスクール



奥入瀬にて

その後は乞われるままに、北は群馬県から南は熊本県まで、スイミングスクール、電気工事会社、養鶏業者、幼稚園、農協、鉄鋼卸会社、生協などの経営相談で日々を暮らしてきました。
(※この原稿も、ちょうど山口への出張をささんで書いて頂いたようです。編集部)

約束事は守るべき人間が決める

そして現在の私の肩書きは「経営コンサルタント&子育てアドバイザー」。全く勝手に名乗っています。

私の経営アドバイスは以下の柱から組み立てています。

- (1) 目標志向
- (2) 予算化
- (3) Y理論による組織運営

目標志向は必要な期間を想定し、その期間に得たいこと、したいことを描くことを最優先にしています。この対極にあるのは「現状問題解決型」と呼び、場当たりの経営手法として排除するようにしています。さらに一般の企業や事業体では目標志向をノルマ志向……すべきことと混同してい

ることを注意して整理します。

- 主に対象毎にその期間の幸せ像を描きます。①顧客 ②仕入れ先 ③従業員 ④事業体の継続性 ⑤国や社会への貢献 ⑥出資者 ⑦経営者、が大きな対象区分です。そのそれぞれがハッピーであるとき、事業体のエネルギーは最大化するとの仮説に基づきます。

ことさらに目標志向を大切にするのは、原理的な視点だけではなく、1990年のベルリンの壁崩壊から冷戦の終結、ソ連東欧社会主義圏の崩壊以降、軍縮、物余り人余り、大競争↓デフレ基調の定着という状況認識にあります。

小手先の価格政策や販売政策では事業存続は難しいとの認識です。むしろデフレ時代にふさわしい生活像⇨幸せ像の提案が事業に求められていると考えています。

予算化は、目標、課題の整理から、到達期間から現在までを逆算で組み立てます。目標に対する現実さが人々の能力を汲み出すとの考え方です。

さらに予算は約束事であり、予測ではないことを注意してきました。対前年〇〇%アップなどの目標設定は何の根拠もない予算編成であると考えています。予算は「する」こと⇨約束事であり、「なる」ことではないと考えています。

年間単位ですべての組織段階で目標⇩課題⇩戦術を一定の書式を提示し、言語化し、数値化して編成し、執行状況を点検します。

Y理論による組織運営とは、「命令なき組織運営」と名付けていますが、「約束事は守るべき人間が決める」との原則を大切にしています。とくに予算編成、従業員の評価や待遇条件設定での原則を大切にします。

俗にいうX理論……鉛と鞭による管理統制を排除します。すでに日本人の消費生活水準は、「命

を守る消費Ⅱ必需的消費」対「選べる消費Ⅱ選択的消費」が25対75に至っている高度消費社会で、かつ18歳以降の進学率が80%を超えるという高学歴化では、管理統制型マネージメントではエネルギーが汲み出せないとの認識に立っています。状況認識の学習には長谷川慶太郎氏や佐藤優氏の著作を参考にしています。

私が相談を受けたりする企業はほとんどが中小零細規模で、現状問題解決型の経営が多く、この3つの柱によるアドバイスは効果的でした。目に見えた変化が出るまでは、月に1回の訪問で3年位かかりますが、変化が目に見え出す時がやりがいを感じる時です。

10年間以上企業や団体のアドバイスを仕事にしてきました。無論本から得たものもありました。吉本隆明氏の著作や谷川雁氏の著作からは大きな影響を受けています。経験の世界では千里山生協時代の経営経験や水口スポーツセンターでのスィミングクラブや乗馬クラブ経営の経験もあります。その経験も学生運動の経験やF I W Cの経験からの組織論を展開してきたように思えます。

F I W Cの後輩たちが何回か千里山生協や(株)水口スポーツセンターを訪ねてきてくれましたが、異口同音に「キャンプの雰囲気やなあ」と話していました。

暴力性の解体

子育てアドバイザーを名乗るようになったのは、いわゆる育児期は13年間単身赴任でしたので、妻からは「殆ど育児をやっていないのに」と笑われていますが、スィミングクラブ、乗馬クラブ経営で多くの子どもを相手にしてきたことにより、不登校学童の無料受け入れなどに取り組む過

程で保護者から相談を受けるようになりました。無い知恵を絞り、本などを読んでいく内に、子どもにとって大変な時代になっていることを感じ始めました。芹沢俊介氏や高岡健氏の著作から多くを教えられました。と同時にその基本的視点は事業経営視点と同じだと気づきました。そして学校や既存の教育機関を超える事業を提供できるのではと考えるようになりました。

キーワードは「暴力性」です。先に示した経営の3つの柱は、経営から暴力性をどれだけ排除できるかが時代的要請だと感じているのですが、子どもを取り巻く環境こそもっと深刻な内容になっているのです。

ある事業体に暴力性を感じた場合、顧客なら不買などで、従業員なら退職などで暴力性を逃れることができず、子どもの世界では不登校さえ容易ではなく、ましてや親子関係などでは逃れようのない厳しさを受けています。それが子どもたちが主人公になる不幸な事件の続発になっているように思えたのです。

「暴力性」は必ず対抗暴力Ⅱ仕返しを呼び起す。子どもたちによる事件は何かの暴力の対抗暴力だ。対抗暴力に先行する暴力を解き明かさなければ、こうした事件は防げないと考え、私たちの事業を対抗暴力に至るまでの暴力性の解体に役立てたいと考えました。

私は「暴力性」は①受け手が望まないのに、②一方的に、③不快、不利益を感じたとき、受け手が感じる心である、と定義しました。この三条件の一つでも除くことができれば、暴力性は解体できると考えました。

それに向かう大切な視点は、受け手が感じる心ですから、誰もが暴力的位置にいることの自覚だと考えました。よかれと思う心、善意だと思っ

ても、受け手には暴力と感ぜられているかもしれないという認識です。

中でも「生まれることには責任がとれない」事による暴力性は最も解体されなければならないことに気づきました。大抵は実母によって解体されるのですが、解体されなかった場合は深刻だと思っています。躰や教育的迫りは解体を阻害します。さらに経済的に貧しい時代は、露出しにくかった根源的な暴力性が、豊かさの時代に露出するようになり、深刻化していると受け止めています。

温水プール環境や乗馬環境はその解体をお手伝いできる素晴らしい環境だということに気づきました。前者は年中安全に暴れ回れることがそれであり、後者は言語を超える伝達技術体験がそれなのです。

事業経営者や従業員には根源的な暴力性が露出する時代背景を話し合い、その暴力性の解体に向かう事業を追求しようと働きかけ、保護者の方々にも子どもたちを取り巻く深刻な環境を乗り越えようと働きかけています。

小さな事業体経営の成果がなく、それほど優秀でもない4人の子どもの親でしかありませんが、現在71歳、受け入れ先がある限り、こんな仕事を続けていきたいと考える今日この頃です。

【著書、共著書】「遊びの時代のマネージメント」水口スポーツセンター刊、「感動を商品化する経営手法」業界紙クラブパートナー連載、「水と遊び水に学ぶ」「スィミングクラブ育児考」「子どものこころ大人のこころ」「増補子どもこのころ大人のこころ」以上不昧堂出版刊、「やさしいお母さんになれる子育てヒント」雲母書房刊（ユーチューブで「樋口邦彦」で検索すると、私の保護者向けの講演を観て頂けます）

寸 莎

第124回

矢追 登美香さん

看護職を目ざす

今回登場してもらおう紫陽花邑の矢追登美香さんは、看護職を目ざして勉強中の元氣いっぱい22歳の大学生である。

昨年6月末に帰幽した故矢追盛賢前大倭殖産社長の葬儀に登美香さんが参列した際に、「大倭とか矢追家とか法主様とかは、自分にとって一体何なのだろうか」という興味を抱くようになり、関連した資料や本を手に入れた。「まだ、ほとんど目を通していないけど」と照れ笑いが、「これから追い追いでいきたい」と思っている。法主様は曾祖父に当たる。

昨年、本紙11月号の「寸莎」で紹介した大倭滝の峯荘で働く矢追法亮さんも、同じ葬儀で同じような関心を持つようになったと伝え聞いて取材したが、今回も若い世代に照



明を当てて、さらに年齢が下の登美香さんにお話しを聞かせてもらうことにした。

登美香さんは平成7年4月17日に矢追明孝・真知子夫妻の長女として、母方の祖母が住む大阪の弁天町で生まれた。命名には法主様の思いが籠っている感じがする。1歳年下の知奈都さんとの2人姉妹である。

現在は大阪府吹田市にある大和大学の看護学科4回生である。看護職を目標とすることになったのは、母親や祖母が看護師である影響が大きいのかという問いに対して、「保育園に通っていた時に、成長痛のようなもので一時的に歩行困難になり、1週間あまり大倭病院に入院した。その際に手厚く看護してもらった経験が大きかったような気がする」という答えが返ってきた。もちろん母親たちからの目に見えない影響もあったろうが、この経験が看護職に憧

れる原点になったようだ。

小学生の時から活発な子供だったようで、「皆で藤ノ木台の中央公園で鬼ごっこやキックベースなどで思い切り遊んだりしてお転婆だった」と笑って語り、「富雄南中学校に進学してからはバスケットボール部に入り、長身を生かしてセンターを務めた。部員同士も仲が良くて楽しかった」というから、のびのびとした子供時代を過ごしたようだ。

中学での勉強は、「数学は二ガ手だったけれど、社会が好きで、特に歴史的なことを暗記するのが得意だった」と言い、卒業する時に社会の教師から、「記念にノートをくれなにか」と言われたほどだった。

前述の故矢追盛賢さんは、登美香さんの祖母の矢追美壽紀さんの従弟に当たるのだが、彼女が生駒高校に入学した時に、その盛賢さんが、「オレは生駒高校の第1期生だけど、お前は50期生なんだなあ」と感慨深げに話してくれたというから、盛賢さんは世代のバトンタッチということを意識していたのかも知れない。

生駒高校では1年生後半からサッカー部のマネージャーを志願して務めた。「女性はマネージャーの私ひとりだけだった」と胆が据わっている。「マネージャーの仕事は洗濯、飲み物の補充、スコア記入と忙しか

った。部員とマネージャーはそんなに仲良くなかったけれど……」といわずらっぽく笑う。

部員が怪我や捻挫をした時に、バンドエイドやスプレーやテーピングで簡単な手当てをすることがあり、「そのことは看護を学ぶこととながつていたような気がする」と語る。大学への進路決定について、「両親は一切干渉せず見守ってくれた」というが、本人も「指示されたり縛られたりすることは嫌い」と言い切る。

大学では看護の勉強に打ち込む傍ら、邑の近くの回転寿司屋で4年間にわたりアルバイトに励んだ。「この仕事はきついけれど、面白くて飽きない」とガンバリ屋である。

今就活中でもある。3回生の時に呼吸器外科での実習を体験し、「周手術期(Ⅱ手術中)だけでなく前後も含めた一連の期間」での仕事の面白さを実感したので、その分野で先進的な活動をしている仕事場で働きたい」という願望を抱いている。

読書や映画鑑賞も好きで、森登美彦の小説を読んだり、映画は恋愛物を見ると。血液型はB型で、好きな色を尋ねると、「赤、紺、黄……どれも好きかな」ととらわれがな。よく笑う22歳である。

(聞き手 岸田哲)

あじさい日誌

4月11日 杉本順誠君が富雄南小学校に入学しました。

東大阪市の杉山節子さんが来邑。「大倭の桜がこんなに綺麗とは思いませんでした。あれえ？昭和27年頃から法主さんに付いて来られた方なのですか……。」

4月14日 石垣雅設さんと磯部泰敏・尚吾さん(静岡県磐田市)が来邑。大倭会館で1泊して前負祭に参加されました。

夜、早目の開花で残り少なくなった西の斎庭の桜の下、大倭殖産(株)の皆さんが宴会。

中村昇次さんが帰幽されました



4月30日午後5時3分、在住40年あまりで大倭紫陽花邑一番の有名人「昇ちゃん」(満84歳)が帰幽。5月2日には介護認定

4月15日 大倭神宮で前負祭が行われました。祭典後、左京源皇さん(愛知尾張旭市)や藤本宏秋さんは紫陽花邑に来て拜殿で法主さんの映像記録などを見た後、大倭会館で1泊。

また、アメリカ人のアントワネット・ロマノフさんと京都の山田緑さんが初参加。昇ちゃんも外出許可をもらって大倭病院から参加、マイクを持たせてもらって上機嫌でご挨拶。岸野春子さんと溝口富士男さん(先月号の夫は間違いでした、スミマセン)の車椅子介助で。

5月9日 大倭病院で「看護の日のイベント」、10時~14時。健康チェック(骨密度・血管年齢・血圧・身長・体重・握力等の測定)や健康相談などに参加者113名とのこと。

4月15日 F I W C 定例委員会は今月も大阪で開催。

4月25日 法主さんの父矢追隆蔵師のご命日。4月号の表紙は前負祭にちなみ、大正9年4月15日隆蔵師ご創建の旧大倭神宮の写真でしたが、ここにも4月という節目がありました。

4月29日 家族交流会。チーム対抗でアトラクション。(菅原園)

4月20日 鏡池堤防の補修工事が行われました。

4月23日 大倭大本宮月次祭。この日発行の『おおやまと』紙の「追悼の記」筆者、水島照美さんと娘通香ちゃんが祭典に参加。まこりんこと夫の誠さんのちょうようど五十日祭に当たる日でもありました。

4月21日 新入職員研修会。

近く長曽根寮へ移る話が進む先、駆け付けた皆に見守られつつの大往生でした。

4月23日 奈良県障害者スポーツ大会卓球の部に4名が参加。(長曾根寮)

4月20日(特養)誕生会で7名大倭会館に5日から2泊。

滞りなく邑人達によって段取りがなされ、5月1日午後7時から大倭会館において行われた前夜祭には1000人を超えるほどの方がお別れに来てくれました。(誰一人義理でお出でになつていないと思います)

5月2日、晴天の下、12時から帰幽祭。出棺の車の通り道の大倭安宿苑、大倭病院の職員さんが見送って下さる姿も。

4月6日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

法名は「神倭 修道尚尔比古命」。6月18日(日)午後5時から大倭会館で、五十日祭が行われます。(杉本・岸野記)

4月23日 奈良県障害者スポーツ大会卓球の部に4名が参加。

6月6日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

4月23日 大倭神宮月次祭。

4月29日 家族交流会。チーム対抗でアトラクション。

6月11日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。6月は12月とともに大祇ぎの月です。

4月20日(特養)誕生会で7名大倭会館に5日から2泊。

4月21日 新入職員研修会。

6月15日(木) 午後2時より大倭神宮にて。

4月23日(金) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

6月23日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

6月23日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

第335回大倭会文化行事

風薫る大阪大川船巡り



日時 平成29年6月25日(日) 小雨決行

※都合で第4日曜日に変更されてます。

集合 大阪御堂筋線「淀屋橋」駅改札口 10時50分

交通 (奈良方面から) 近鉄学園前駅10時44分発、難波行快速急行→難波駅10時31分着→地下鉄御堂筋線にて15分、淀屋橋駅下車

行き先 淀屋橋船着場で11時20分発のアクアライナー(指定席・大人1700円)に乗船、大阪城・桜の宮など約1時間の周遊です。昼食はお店で。

問合せ 湯浅芳郎090-6987-5847

作品展

あじさいの箱カルチャーサークル

習字・手まり・押絵・着物リフォーム・真向法

場所: 大倭会館

日時: 平成29年6月17日(土)~18日(日)

午前10時~午後4時

※最終日は午後3時まで

お問合せ/0742-47-6276 (溝口ツヤ子)



あんない

*月次祭(大倭神宮)

6月6日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催第581回祝会

6月11日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。6月は12月とともに大祇ぎの月です。

*月次祭(大倭神宮)

6月15日(木) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大本宮)

6月23日(金) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。